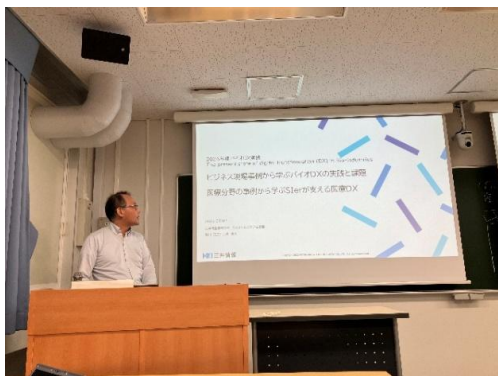


東京科学大学 生命理工学院の社会連携教育プログラムにて、 バイオ DX をテーマに弊社社員が講義を行いました。

7 月 2 日(木)、弊社の社員 2 名が、国立大学法人東京科学大学(所在地:東京都目黒区、学長:田中 雄二郎)生命理工学院における社会連携教育プログラム「2026 年度 バイオ DX エコノミー実践」で講義を担当しました。



■ 当日の講義の様子(左からバイオヘルスケア技術部 本川、手島)

本講義は、産業・ビジネスの実課題に対応でき、さらには新たな基幹産業であるバイオエコノミーの創出を実現できるバイオ DX 人材の育成を目的とするもので、企業の講師と大学の教員が講義を担当し、PBL(Project-Based Learning: 課題解決型学習)を取り入れた実践的教育を実施しています。本プログラムの一環として、弊社の社員 2 名が「ビジネス現場事例から学ぶバイオ DX の実践と課題」をテーマに、前半・後半の二部構成で講義を担当しました。

前半では、バイオヘルスケア技術部 本川が「医療分野の事例から学ぶ、SIer が支える医療 DX」と題し、弊社バイオヘルスケア事業の全体像を紹介するとともに、公的研究機関との取り組みを中心に解説しました。医療を支える検査システムやデータ基盤における弊社の役割を事例として取り上げ、バイオと IT の融合が医療の現場でどのように価値を生み出しているかを、システムインテグレーター(SIer)の視点から具体的に紹介しました。

後半では、同部の手島が、バイオものづくり(バイオエコノミー)分野における企業や大学・研究機関での具体的な事例を題材に、研究成果が事業化・社会実装に至るまでのプロセスと課題を解説しました。また、実践課題として事業戦略策定フレームワークの 1 つである「SWOT 分析/クロス SWOT 分析」を取り上げ、学生が架空のバイオベンチャーの事業戦略を立案するグループワークを実施しました。

以上

【三井情報株式会社について】

三井情報株式会社(MKI)は、『ナレッジでつなぐ、未来をつくる』をパーパスに掲げ、ICT を基軸とした事業を通じて、社会やお客様の課題解決に取り組んでいます。第 8 次中期経営計画では、「進化」と「コラボレーション」を通じて「残すに値する未来」を築くことをあり姿とし、これまで培ってきた技術や知見を活かしながら、ステークホルダーと共に新たな価値の創出に取り組んでいます。

ホームページ: <https://www.mki.co.jp/>

※三井情報、MKI 及びロゴは三井情報株式会社の商標または登録商標です。

※本リリースに記載されているその他の社名・商品名は、各社の商標または登録商標です。

【本件に関するお問い合わせ先】

三井情報株式会社

広報・ブランディング推進室

TEL : 03-6376-1008 E-mail : press-dg@mki.co.jp